

# 令和7年度の車輪脱落事故防止 対策の取り組みについて

---

東北地域事業用大型車の  
車輪脱落事故防止協議会事務局  
令和7年10月27日



1. 日常点検等に係る運転者指導教育の徹底
2. 「走る前、左後輪点検キャンペーン」の実施
3. ホイール・ボルト及びホイール・ナットの点検に係る指導・啓発
4. 運輸支局長による運送事業者の日常点検実施状況の視察
5. ホイール・ナット脱落予兆検知装置の普及拡大
6. 事業者向け車輪脱落防止における実態調査

# 1. 日常点検等に係る運転者指導教育の徹底

東北地域事業用大型車の車輪脱落事故防止協議会

## 《目的》

令和4年度に実施した「車輪脱落事故防止のための自己チェックアンケート」の結果、日常点検においてホイール・ナットの緩みのチェックは高い割合で実施されているものの、一定数の運転者が適切な点検を実施していないことが確認されたことに鑑み、日常点検及び「走る前、左後輪点検」の確実な実施について、運転者への徹底を図る。

## 《実施事項》

- 自動車運送事業者は、定期的な指導教育の場において、大型車の運転者を対象に、各県トラック協会ホームページで公開中の「走る前、左後輪点検キャンペーン」に係る啓発動画、国土交通省YouTubeチャンネルで公開中の「適切なタイヤ保守管理作業手順」及び「適切なタイヤ脱着作業手順」の動画等を用いて車輪脱落事故防止に係る日常点検及び「走る前、左後輪点検」の実施方法について指導する。
- 特に、タイヤ交換後の車両にあっては、交換後2月間を強化月間として、「ディスク・ホイールの取付」に係る日常点検結果及び実施状況を重点的に確認する。
- 会報、ホームページ等において強化月間であることを広報する。

## 《実施時期》

- 定期的な指導教育：10月～12月のできるだけ早い時期（最低1回実施）
- 広報：10月～翌年1月の間、毎月

※年末年始の輸送等に関する安全総点検（以下、「総点検」）の重点点検事項として自主点検表にて点検・報告を求めることにより実施状況を調査。

○「適切なタイヤ脱着作業手順」



○「適切なタイヤ保守管理作業手順」



○「走る前、左後輪点検キャンペーン」



## 2. 「走る前、左後輪点検キャンペーン」の実施

東北地域事業用大型車の車輪脱落事故防止協議会

### 《目的》

大型車の車輪脱落事故を防止するためには、早期にホイール・ナットの緩み等の異常を発見することが有効なため、「走る前、左後輪点検キャンペーン」を展開することにより、運行開始前の点検の実施を浸透・定着化を図る。

### 《実施事項》

- 各県トラック協会会員事業者に所属する運転者を対象に、乗車する前の左後輪確認を徹底するためのキャンペーンを展開する。
- 大型車を保有する各県トラック協会会員事業者に標語ステッカーを配布し、乗車時に運転者が目にする位置に標語ステッカーを貼付することにより運転者の点検漏れ防止を図る。

### 《実施時期》

- ステッカーの追加作成（10月～）・配布（11月～2月）
- キャンペーン（10月～2月）

※総点検の重点点検事項として自主点検表にて点検・報告を求めることにより実施状況を調査。



# 3. ホイール・ボルト及びホイール・ナットの点検に係る指導・啓発

東北地域事業用大型車の車輪脱落事故防止協議会

## 《目的》

令和2年10月に「大型車の車輪脱落事故防止対策に係る調査検討WG」が取りまとめた車輪脱落事故防止対策の方向性に係る「中間とりまとめ」によると、初度登録年から4～6年経過した車両において脱落の発生が多く、その要因としてボルト、ナット、ホイールの錆等により必要な締め付け力が得られずナットの緩みが生じ易くなったと推定されている。

そのため、「大型車の車輪脱落事故防止「令和7年度緊急対策」」においても実施したホイール・ボルト及びホイール・ナットが新品の状態から4年以上経過している車両を対象とした入念な確認が確実に実施されるよう徹底を図る。

## 《実施事項》

- 「お・と・さ・な・い」のチラシによる周知、啓発。
- 会報、ホームページ等による周知、啓発。

## 《実施時期》

- 令和7年度キャンペーンに合わせて実施。（10月～2月）

## 【東北運輸局HP】

＜国土交通省プレスリリース 大型車の適切なタイヤ脱着・保守管理作業解説動画を公開！＞

- ▶ プレスリリース
- ▶ 報道発表(国土交通省HPへ)
- ▶ 参考 適切なタイヤ脱着・保守管理作業手順啓発動画(抜粋)

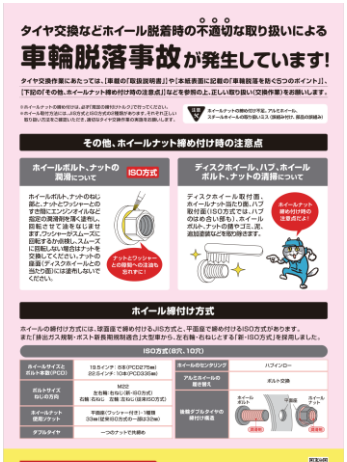
適切なタイヤ脱着作業手順動画 画像をクリックで視聴できます。右は作業趣旨説明付きです。



適切なタイヤ保守管理作業手順動画 画像をクリックで視聴できます。右は作業趣旨説明付きです。



## 【啓発ちらし】





## 4. 運輸支局長による運送事業者の日常点検実施状況の視察

東北地域事業用大型車の車輪脱落事故防止協議会

### 《目的》

運輸支局長が日常点検実施状況等の視察を行うことにより、車輪脱落事故の危険性、日常点検及び「走る前、左後輪点検」の重要性の認識を高めるとともに、協議会の取り組みの浸透を図る。

### 《実施事項》

- 日常点検の実施内容の視察とともに、「日常点検の指導教育の徹底」及び「走る前左後輪点検キャンペーン」の実施状況を確認する。
- 実施にあたっては、運輸支局毎にプレスを行う。

### 《実施時期》

- 視察は、「走る前、左後輪点検キャンペーン」を開始するタイミングで実施する。  
なお、年末年始の輸送等に関する安全総点検と同時に実施することもできる。

### 【イメージ】



【岩手】NHKニュース映像より

## 《目的》

「走る前、左後輪点検」における運転者の確認作業の負担軽減及び定着を図るため、ホイール・ナットの緩みを目視で容易に確認できる「連結式ナット回転支持インジケーター」（以下「インジケーター」という。）、その他検知装置の普及を促進するとともに左後輪点検への意識を高める。

### 《實施事項》

➤ インジケーター、その他検知装置の効果を広く周知する。

## 《实施方法》

➤ 各県トラック協会が行っている車輪脱落事故防止セミナー・車輪脱落事故防止研修会などの各種研修会などにおいて配布を行う。

### 《實施時期》

➤ 各県の各種研修会開催日（令和7年10月～）

## 連結式ナット回転指示インジケーター

# ホイールナットの緩み 一目瞭然

## 防ごう！大型車の車輪脱落事故

国土交通省は、ホイールナットの緩み防止のための自動車点検及び整備に関する手引きを一部改正し、ホイールナットマーカー等を活用した新たな検査方法を導入しました。

本資料は、国土交通省の「ホイールナット点検、点検手引き」に基づき、国土交通省が「ホイールナットマーカー」の活用についての内容をまとめたものです。

詳しくは「ホイールナット点検」についてダウンロードしてください。

正常

ホイールナットの緩みが  
ひと目でわかる！

締め付けたあとにナットが回ると  
インジケータが回転する。

変形

高精度点検が  
誰でも可能に！

装着するだけでなく、点検業務が  
ひとひらにも楽になる。

日常点検の負担を  
軽減！

目視で点検、簡単な打撃を何度も  
受ける必要がありません。

## インジケータを正しく安全に使用していただくために

### ● 装着前

1. トルクレンチなどを使用してホイールナットの締め付け強度を確認します。
2. 装着前に必ずホイールナットの溝面の潤滑を必ず行います。
3. 溝の形状が磨耗しているインジケータが装着できないように取り替えます。

### ● 装着時

1. 一輪の全てのホイールナットに、数字の9と6の形になるように装着します。
2. インジケータを必ず右回りのホイールナットに逆回転させるように装着します。
3. インジケータのOリング部分を強く押さえないように取り替えます。
4. インジケータをナット溝面に正確に押し込みます。

※ Oリングがインジケータが装着する溝面から浮き上がり、Oリングが溝面から少しはみ出ると取り替えます。

リング部

ナットを連結

逆の取り

大型車メーカー4社の近郊の販売店でお買い求めください。

画面に続く

## 車輪脱落予兆検知装置のご案内

### 走行中に異常を検知

## 大型車の車輪脱落事故ゼロ宣言



年間100件を超える大型車の車輪脱落事故が発生しています。車輪脱落事故防止には、車輪脱落時の確実な作業及び保守管理の徹底が最も重要ですが、近年増加された車輪脱落予兆検知装置は、安全の確保のみならずドライバーの負担軽減も期待できます。

**車輪脱落の予兆を検知**

ホイールナットが緩みなどにより車輪が脱落する恐れが発生した際、その手動を感知し、ドライバーに警報します。



年間100件を超える大型車の車輪脱落事故が発生しています。車輪脱落事故防止には、車輪脱落時の確実な作業及び保守管理の徹底が最も重要ですが、近年増加された車輪脱落予兆検知装置は、安全の確保のみならずドライバーの負担軽減も期待できます。



音・光で警報



簡単脱着



予兆警報

走行中に発生したセンサーがナットの緩みなど車輪脱落の予兆を検知し、車輪脱落事故発生前に防止



音・光で警報

ナットの緩みを感知してドライバーに通知、見逃し防止



簡単脱着

取付けや車輪脱着時とも簡単で安全

## 予兆検知の3ステップ

### Step-1



① 車輪脱落の予兆を検知  
センサーがホイールナットの緩みなど車輪脱落の予兆を検知

### Step-2



② 電波で送信  
遠距離の受信機へ電波で送信

### Step-3



③ ドライバーに警報  
音と光でドライバーに警報

# 車輪脱落予兆検知装置のご案内

## 経営リスクをゼロへ

### 大型車の車輪脱落事故ゼロ宣言

車輪脱落は重大事故につながりかねない大変危険なものであり、車輪脱落事故を起こすと「車両の使用停止」などの経済的や様々なリスクが発生します。

**信用リスク**

配送遅延、事故報道

**資金リスク**

運行停止、賠償金、保険料率、修理費用

国補助金をコスト削減（令和6年度・先進安全自動車（ASV）の導入に対する支援）



**補助率：費用の1/2（上限5万円／台）**

**対象装置：車輪脱落予兆検知装置（後付付）**

※後付付の車輪脱落予兆検知装置については、国で定められている認定された装置が有効となります。

**受付期間：R7.5.8～R8.1.30 ※非予約制**（ただし次回更新補助金ポータル： <https://hogo-zoushin-6h.jp/>）

導入のご相談は近近くの販売店へ

車輪脱落の予兆検知装置は、車種・機体構成により適合が異なります。

取付可否・導入費用・補助金の対象可否については、大型車メーカー4社の近隣の販売店へお問い合わせください。

### よくある質問

- 1. 受付の日の変更希望は？**  
 例：2025年10月1日時点、国土交通省の決定で受付は「受付開始日」750台のトラック、を対象とした制度です。（Uターンではありません。今年度の補助を待たない）
- 2. 補助金の対象車種は？**  
 自動車（乗用車）と貨物車（トラック）を、国土交通省の決定で「車輪脱落予兆検知装置」を装着する場に限りです。  
 詳細については、上記の補助金ポータルページにてご確認ください。
- 3. 点検日程のやりくりは可能ですか？**  
 ※車検に先行してメンテナンス、車輪脱落予兆検知装置を装着する必要があります。すでにカー・カーナールの点検がある場合はありますので（2025年10月1日現在）でなくても、任意・予定点検日時を予約してください。点検場所は、取扱店等でご確認ください。



一般社団法人日本車輪株式会社  
 〒107-8304 東京都港区新橋  
 1-10-10 新橋ビルディング  
 10F（10階）



国土交通省の補助金ポータル  
 車輪脱落予兆検知装置

# 6. 事業者向け車輪脱落防止における実態調査

東北地域事業用大型車の車輪脱落事故防止協議会

## 《目的》

事業者に対して、車輪脱落防止における実態調査を行い、自社での車輪脱落防止に対する取り組みの振り返りのきっかけ、また、結果を公表することにより、自社での取り組みの見直しを図る。

## 《実施方法》

東北運輸局においてプレスを行い、各県運輸支局、各県トラック協会、各県バス協会及び各県自家用協会ホームページ掲載等に協力をいただき、広く周知する。また、アンケートについてはMicrosoft Formsを活用して行う。

## 《実施時期》

- プレス日：令和7年11月4日（火）
- 調査期間：11月4日～12月20日
- 結果公表：令和8年1月中旬（予定）



## 大型車の車輪脱落防止に向けた実態調査アンケート

|                                                         |
|---------------------------------------------------------|
| 1. 御社の業態を下記より選択ください。なお、複数業態をお持ちの方はメインとなる業態を選択ください。      |
| 2. 御社の所在地を下記より選択ください。                                   |
| 3. タイヤ交換又はタイヤローテーション時にホイール・ボルト及びホイール・ナットには潤滑材を塗布していますか？ |
| 4. 潤滑材の種類はどのようなものですか？                                   |
| 5. 定期的にホイール・ボルト及びホイール・ナットの錆又は損傷状態を確認していますか？             |
| 6. 頻度はどの程度でしょうか？                                        |
| 7. これまでホイール・ボルト及びホイール・ナットを交換したことはありますか？                 |
| 8. どの程度使用(期間)して交換しましたか？                                 |
| 9. タイヤ交換後、増し締めはしていますか？                                  |
| 10. 増し締め後、トルクレンチで確認していますか？                              |
| 11. 日常点検時にホイール・ボルトの締め付け状態を点検ハンマーを用いて確認していますか？           |
| 12. 頻度はどの程度でしょうか？                                       |
| 13. ホイール・ナットが緩んでいた場合、トルクレンチを使用して増し締めしていますか？             |
| 14. 車輪脱落事故防止において、御社で取り組んでいることがあれば記載ください。（自由記載）          |